

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ばんびーに トレーニング館		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日		～ 2025年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数) 20名
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日		～ 2025年 2月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「就労応援型」として、学校卒業後の進路に向けての支援内容を多く取り入れている。	自社の農園を使用しての農作業や就労継続支援A型、B型事業所での作業体験を多く取り入れ、就労に向けての選択肢が多くもてるようにしている。	関係機関と連携を図り、保護者や利用者の希望にできるだけ添えるように支援内容の充実を図っていく。
2	利用者の特性にあわせた個別支援や小集団、グループ活動の支援を行っている。	個々の特性に応じた教材を用いて、スモールステップで進めている。グループ活動では、協調性や自己効力感が身につき、スムーズに社会生活が送れるようにしている。	有資格者のスキルを活かし、利用者ひとりひとりの特性に合わせたプログラムを作成することで、利用者の成長・発達の支援がより効果的に行えるようにしていく。
3	職員間での情報共有ができています。	毎日の朝礼又は昼礼時には、活動内容や保護者とのモニタリングの報告及び個別支援計画書についての説明を行い、療育等の共通理解を図っている。業務終了後には、振り返りを行い、月に1回、全体ミーティングを行い、翌月の予定など事前に準備ができるようにしている。	定期的に職員の面談の機会を設け、抱える悩みや相談ごとを話せる機会をつくる。（管理者・児童発達管理責任者）職員間で何でも言いあえるよう、風通しの良い職場環境をつくる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎の都合上、利用当日の子どもの状況や活動の様子を保護者と共有できていないことがある。	複数の児童・生徒の送迎を行っているため、保護者へ子どもの当日の状況や活動の様子が伝えられるときと伝えられないときがある。SNS（インスタグラム）で活動の掲載はしているが、保護者全員に周知されていないと思われる。連絡帳はあるが、活動の様子を記入するためには、活用されていない。	送迎時は、他の児童・生徒も一緒にいるため、子ども達の安全を第一に考えながら検討していく。保護者との意見交換の中で、電子連絡帳のお話がありましたので、検討していきたい。
2			
3			